

学期レポート 2011 年夏学期

BOSTON
UNIVERSITY

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業

第 4 期生 武田 太一



ボストンの夏

ボストンにやってきて、ようやく一年が過ぎた。こちらに引っ越してきた当初は、フリーモントの穏やかで乾燥した気候が懐かしいほど猛暑だったのを覚えている。エアコンを購入するか迷った夏をまた味わうことになるのかと思ったら、予感は見事に的中した。6 月頃に入ると、35 度を超える猛暑日が何度かあり、外を歩こうと思ったらタオルが欠かせないほどよく汗をかいた。しかしその反面、雨が降ってくると一気に寒くなり、上着を忘れると風邪を引いてしまいそうになるという極端な気候でもある。今日 1 日は暑くなるのか、寒くなるのかなかなか読めないことが多いボストンの気まぐれな気候を、今後も共に過ごしていくことになるだろう。

夏学期の講義

この夏学期では 2 クラスを受講した。

- DE571 Deaf Literature and ASL Folklore / 聾文学とアメリカ手話伝承
- SE551 Topics in Special Education / 特別支援教育トピック(自閉症)

この他にもスイミングクラスを自費で受講した。以前から何かスポーツを学びたいと考えていたため、夏に相応しくスイミングを選択した。手話通訳も同伴して、今までに知ることの出来なかった泳ぎ方をちゃんと教えてもらう事ができ、改めて情報保障の大切さを感じた。

DE551 聾文学とアメリカ手話伝承

アメリカ手話や聾を題材とした詩、パフォーマンス、音楽などの作品に触れ、どういう意図や経緯を元にこれらの作品が作られたのかなど議論を交わしていくクラスであった。講義中にアメリカ手話に関する映像作品などを鑑賞し、この作品はどのような面で優れているのか、または劣っているのかクラスメイトと共に語り合ったりした。例えば ABC ストーリーには幾つかのルールが存在し、これらのルールに沿っているかあるいは沿っていないか見極めるなど面白い議論も出来た。この議論を通して、いかに聾/手話による芸術が視覚的に重点を置いて作り上げられたものであるか考えさせられた。それと共に、聾/手話文学に関する学習指導案をいくつか作成して、生徒たちにどのようにして教えていくかを考える機会も与えてくれた。

SE511 特別支援教育トピック(自閉症)

自分の研究テーマが聾重複ということもあり、特別支援教育の講義もいくつか取っておきたいと元々考えていたため、このクラスを受講することにした。今まで日本で自閉症あるいは聾自閉症の子どもたちと接した経験も合わせて、この講義では教授や受講生とともに多彩に渡るトピックで議論を交わすことができ、良い経験となった。1 週間という短期集中であったのが悔やまれるが、今後もボランティアなどで経験を積み重ねつつ、自閉症について更に知っていけたらと思う。

留学 3 度目の夏

今年の夏は実にいろいろな経験をさせてもらうことができた。自分の担当教授の研究室で言語獲得に関する研究のアルバイト、名古屋外国語大学のボストン大学短期留学プログラムにおけるアメリカ手話指導はもとより、何人かの友人に誘われてあちこちに出かけるなど、アメリカの夏を堪能することができた。住んでいたアパートも 1 年契約が 7 月末で切れ、次の新居は 9 月頭に入居となるので 8 月の間はボストンから 1 時間ほど離れた郊外にある友人の家にお世話になるなど、生活環境が落ち着かないこともあったが、これもまた夏の思い出の 1 つである。次学期は 4 クラスを受講するとともに、聾学校でのボランティア、盲ろう者通訳のボランティア、アメリカ手話指導などが待っている。今までにない忙しい生活になりそうではあるが、思いっきり楽しんでいきたい。